（別紙３）

公表　放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEGON Kids天満月組			
○保護者評価実施期間	2025年　4月　1日	～	2026年　2月　28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	53	（回答者数）	31
○従業者評価実施期間	2025年　4月　1日	～	2026年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月　5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・常勤の理学療法士と言語聴覚士がいる。 ・外で身体を動かして遊ぶ機会が多く、またその時間も他事業所と比べてもかなり多いと思う。 ・児童の"やりたい"を大切にした支援。 ・公園活動や運動の機会を毎日取り入れ、身体を動かすことを大切にしている。	・理学療法士・言語聴覚士が行う活動の時間がしっかり取れるように他の職員も進んで動いている。 ・時間が許す限り、ぎりぎりまで外で遊ぶようにしている事。 ・朝礼、終礼で職員同士で児童の情報を共有して、日々の支援に繋がるようにしている。 ・"やりたい"活動の中で、SSTや感覚統合の要素を取り入れたり、成功体験をつめるよう調整している。 ・公園活動や運動遊びを積極的に取り入れ、児童が身体を動かしながら気持ちを発散できる機会を設けている。 体力づくりや認知機能の向上だけではなく、集団での遊びを通してルール理解や他児童との関わりにつながるように工夫している。	・理学療法士・言語聴覚士以外が不在時でも他の職員がその活動内容を引き継いで行えるような情報の共有と、他の職員は運動療育と言語トレーニングへの意欲関心知識を深める。定期的に理学療法士や言語聴覚士による講習を行う。 ・このような取り組みに、どのような効果があるのかを職員が理解を深め、事業所の見学に来た保護者や契約のタイミングなどでもっと伝えていけば利用頻度はさらに安定すると思う。 ・興味・活動の幅を広げていければいいか。
2	・職員が全体的に、プラスの部分を褒めて伸ばそうとする意識で児童と接している。 ・児童1人1人に合わせた個別支援。 ・レクリエーションを企画し、児童の興味関心や発達段階に合わせて計画を作っている。 ・集団療育、集団行動を通しての児童の自主性の向上。 ・それぞれの年齢や特性に合わせた声掛けや関わりを行うことでの、異年齢間での適切な関わり方やコミュニケーション能力の向上。	・通所している児童は自己肯定感の低い児童が多いので、良くない行動も見受けられるがその点を深追いし過ぎず、良い行動に着目して重点的に声掛けを行っている。良い行動を周囲の児童にも伝えることで自己肯定感の向上にも繋げている。 ・集団活動の中で、児童の特性やペースを大切にしながら、個別の目標設定をしている。 ・外出や調理、製作等バリエーション豊かにレクリエーションを取り入れ、意欲的に参加でき、楽しみながら様々な経験を積める活動を行っている。遊びながらもコミュニケーションやルール理解につながるよう、工夫している点が強みである。	・ABAとして、特に気になる行動がある児童はABC分析を行う機会を設ける。口頭で同じようなことはしているので、記録をつけて視覚的にも情報を残して分析する。分析して問題行動の軽減と良い行動の増加を目指す。 ・専門性の向上、支援方法の共有など密にしていく。
3	・課外活動や特別活動が多い。部屋にこもりきりになることがほぼない。児童たちもいろいろと言うことはあるが聞き入れが早く、積極的に活動に参加できている。 ・LSTやSSTの要素を取り入れたイベント支援。	・月のレクが土日の両日開催されており、レクがない日でも突発的な外出や活動がすぐに決まる。活動に乗り気ではない児童に対しても無理に参加を促すのではなく、できる範囲を確認したり代替案を出したりして、納得して参加できるような促しを行っている。 ・視覚支援や見通しを提示し、順番を待つ・役割分担する・ゲームでルール理解や負けたときの気持ちの整理・買い物体験で金銭管理ややりとりなど楽しみながら身につくようにしている。 ・クラウド上やLINE等による細かな情報共有と、MT等による事案の共有と具体的な改善策の共有。	・面白そうと思う活動や場所の情報に対して常にアンテナを張り、どんどん取り入れる。 ・内容の体系化ができるといいか。 ・時間を作っての児童個人の事案検討の時間が取れると、なお改善が見られるように感じる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童への支援が職員個々で完結してしまっている。 ・不定期の利用や利用頻度の少ない児童が多い。その結果、継続した支援が受けることが出来ず、療育の効果が得られずらいと感じる。（職員や児童との関係性も深まりずらい、支援したことが定着しずらい）そのような児童にも時間をとられ、定期的に通っている児童に対しての支援の質も下がってしまっていると思う。また、事業所の利用に空きがあまりないので、真剣に療育を受けさせたいと考えているご家庭の児童が月組を利用する機会を損失しているように感じる。 ・「やりたいこと」を優先しているがゆえに、「楽しい場」から離れにくい印象。 ・集団活動を優先することで、個別支援が十分に行えていない場面がある。	・各々の職員で児童への支援活動を考えて実施しているが、その職員がいるときのみの活動になっているものが多い。どんな目的でどういった活動をしているか共有が少ない。 ・他事業所との併用利用 ・預かりニーズに応えすぎている。 ・保護者の要望（送迎時間、目標設定など）を優先しすぎている。 ・ルールや我慢を学ぶ機会は弱くなってしまっているのでは。社会適応への負荷が少ないのでは。 ・集団での安全確保や全体の流れを重視しており、一人一人の児童に個々に向き合える時間が少ない。	情報や道具を共有し、その職員が不在時でも継続して取り組めるようにする。児童が取り組んでいるワークや製作物があるのであれば、個人ボックスを作るなど、経過が分かるようにする。 ・契約のタイミングで利用頻度が多いほうが、療育の効果は得られやすい・児童の成長につながりやすいことをもっと伝えていくべき。 ・他事業所の併用をこちらか提案するのをやめるべき。 ・療育に協力的ではないご家庭（電話がつながらない、モニタリングに来ない、送迎時に降りてこない、など）キャンセル待ちにしてもいいのではないか？ ・他の場面で我慢する場面の設定もする。居心地の良さと成長の場を両立できるようにする。
2	・特に雨の日の室内での活動の選択肢が少ない。 ・どんな事業所なのかいまいちはっきりしないこと。集団or個別？運動or言語？何を提供して、児童にどうなっても欲しいのかわからない。 ・支援の根拠がみえにくい印象。	・室内で取り組める運動療育(粗大運動、微細運動)やその他の活動に使うことができる道具が少ない。 ・事業所の掲げるコンセプトが曖昧。職員間での理解も統一されていない。 ・複数の職員がいるので責任の分散が起こり、個々の責任感が薄まっている。 ・数値化していないことや、モニタリング以外での支援が達成できているかを確認する場面がない。（構造化されていない）	・道具を増やす。具体物(ラダー、フラフープ、バランスボール、マットなど)、抽象物(画用紙、粘土、段ボールなど)のどちらも充実させる。 ・方向性を再度管理者を中心に決める必要があると考える。またそれを保護者にも正確に伝えるべきだと考える。 ・当事者意識を高める。期日などの約束事、スケジュール管理を徹底する。報連相を意識して仕事を行う。 ・個別の目標設定と具体的にどのような支援をしていくか、職員の支援の仕方を統一する必要があると思う。
3	・集団活動での児童たちの能力の差が大きく、できる活動の範囲が限られている。 ・個別の療育が必要な重度な児童が集団療育を受けていること。その結果、集団療育の質を下げているし、重度な児童に必要な支援も提供できていない。支援者の負担も増えている。児童本人、周囲の児童、支援者、親の誰も得していない状態になっていると思う。 ・職員の支援方針の一貫性がない印象。	・レク時の職員数が足りていない。 ・重度な児童の保護者にもポジティブなフィードバックをしてしまっていること。 ・暗黙の了解で動いている部分が多い。職員間で朝礼・終礼で児童共有をしているが、明確に支援方針を決めきれない。 ・近隣の公園は狭かったり遊具が少なかったりで、活動内容に制限がある。 ・徒歩10分ほどのところに広い公園があるが、児童の来所時間等の都合で基本的に利用が難しい。	・職員を増やす。 ・会社としては重度の児童が通う事業所を作ってもいいのではないか？ ・共通理念、判断基準みたいなものがあるといいか。 ・集団活動の中でも、個別の配慮や声掛けを意識し、必要に応じて個別に対応に入っても問題ない支援体制を整える。 ・一つの集団として見るのではなく、集団の中の一人として児童の様子を見ていく。